



若い世代へ認知症の理解をどう深めるか

石崎 誠子議員

考える事に重きを置き更に理解を深める
保険福祉部長



▲QRコード付「高齢者見守りステッカー」

問 清林館高校の生徒からの提案で事業化に至った「高齢者見守りステッカー配布事業」の概要は。

答 認知症またはその疑いのある方が独り歩きしてしまった場合に、事前に衣類等に貼ったQRコード付の見守りステッカーを発見者がスマートフォン等で読み取ることで、家族や介護者とインターネット上の伝言板を通して情報交換でき、早期保護に繋ぐ事ができる。

問 利用者から届いた声は。

答 「家族の安心を得ることができるとは、不明時の早期発見の確率が上がる」など、効果を期待する意見があった。

問 誰でも発見者になり得ることから、市外の方も含め、ステッカーの認知度のアップや近隣自治体への周知方法は。

答 海部地域では初の試み。広域においてステッ

カーの存在を周知する必要があります。近隣自治体・警察・消防へは知らせているが、今後は隣接する桑名市や海津市の消防・警察等へ周知を行う。

問 ステッカーは正面から見て分かりやすい場所に貼られているのか。発見者がどのように行動すれば警戒されずにQRコードを読み取れるのか。

答 発見者が読み取る際に利用者に不安心や恐怖心を与えないよう、ステッカーは衣類の襟首と右側上腕部に貼り付けるよう勧めている。複数人ではなく一人で優しく声を掛けて欲しい。

問 若い世代へ認知症の理解をどのように深めているのか、市の対応は。

答 児童生徒に対しては「福祉実践教室」の一つとして、認知症サポーター養成講座を実施している。これまでの講義形式から、今後は個人ワーク等を通じて「考える」ことに重きを置き、更に理解を深めるよう努める。

その他の質問

●地域内要望の現状は

問 清林館高校から提案された検索・保護に関する訓練は実施されたのか。

答 今後、模擬訓練を実施し、より良い対応方法などに活かしたい。